

# 民主化闘争情報

No. 838  
2011年10月14日  
発行 日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

5月の石勝線脱線炎上事故以降、相次ぐトラブルが発生するなど、安全問題が焦眉の課題となっているJR北海道だが、会社のみならず最大組合であるJR総連傘下のJR北海道労組の姿勢にも組合員から疑問の声が上がっている。

## JR北海道は事故を踏まえアルコール検査を完全実施すべき！ アルコール検査は自己申告で免除のJR北海道運転士?!

JR北海道では、運転職場にアルコール検知器を配備し、乗務前の点呼時に検査をするよう呼びかけている。しかし、JR北海道労組は「実施は強制ではない」として、組合役員を中心に、組織的に検査を拒否している状態が続いている。2009年には、札幌車掌所に国土交通省鉄道局と北海道運輸局による立ち入り検査が行われ、アルコール検知器による検査を一部の乗務員が実施していない実態が確認され、次のような厳しい指摘がされた。

「世間は、バスやトラックの乗務員と同様、当然JR北海道もアルコール検査を全員行っているという認識である。ところが、一部の乗務員が前日飲んでいないことを理由に検査を受けないということについては到底理解出来ず、鉄道には大勢のお客様に乗車していただいているという自覚がないのではないか。」

しかし、このような指摘にも関わらず、事態は是正されることなく今日まで経過する中、過日、JR北海道の運転士から以下のメールがJR連合に寄せられた。

助役「アルコール検査どうぞ」運転士「昨日、飲酒していないのでやりません」助役「気をつけて行ってらっしゃい」

上記は、JR北海道の運転士の出勤点呼でのやりとり。

点呼台にアルコール検知器は設置されているものの、検査するかは運転士の任意である。鉄道だけでなくバスやタクシー、トラック業界でもハンドルを握る前のアルコール検査実施は当然となっています。それなのに、未だに検査する／しないは任意。「昨日、飲酒していない。」と自己申告すれば検査不要で乗務可能。(もちろん、助役は体調や顔色をチェックしています) ちょっとおかしくないですか。

JR北海道労組役員は本部からの指示で、乗務前日に飲酒しなければアルコール検査は拒否しようとして取り組んでいます。また、飲めない体質の人や未成年は一切アルコール検査は不要という方針を決議しています。会社も最大組合の同意が得られないと、乗務前全員実施に踏み切れていない状態。

誰のためにアルコール検査をするのか。今年5月の石勝線事故で失われたお客様の信頼を取り戻そうと組合は主張しています。それであれば、お客様に安心して乗車していただくためにも乗務前のアルコール検査は全員実施と決めるべきだと思います。JR北海道労組の方針は、おかしいと思っている運転士も多く、職場では70%の人が乗務前にアルコール検査を必ず受けています。しかしながら、JR北海道労組役員を中心に拒否している人も30%います。

こんなことで、お客様の信頼を回復することができるのでしょうか。「命と安全を最優先に」キャッチフレーズのように使っているJR北海道労組ですが、乗車されるお客様の「命と安全」を本当に最優先に考えているのでしょうか。

## JR各社の中でアルコール検知器を義務化していないのはJR北海道のみ！

『朝日新聞』朝刊(10/8)も、「JR北海道 検知器義務化せず 酒気帯び 対面点呼で判断」との見出しで、以下のようにJR北海道の姿勢に疑問を呈する記事を掲載している(一部抜粋)。同社の対応は、安全を最優先すべき鉄道会社として到底許されるものではない。

全国のほとんどの鉄道事業者がアルコール検知器の測定を乗務員に課す中、JR北海道は義務化していないことが同社への取材で分かった。酒気帯びかどうかは社員同士の対面点呼で判断しているが、客観性に乏しいことは同社も認める。国土交通省令では乗務員の酒気帯び運転を禁止しているが、確認の仕方に定めはなく、JR北海道に違法性はない。同社は今後も見直す考えはないという。……